

第1編 安芸高田市の風土

第1章 安芸高田市の自然と生活

- 1 安芸高田市の成り立ち
- 2 安芸高田市の自然
- 3 安芸高田市の産業
- 4 安芸高田市の人口
- 5 安芸高田市の観光
- 6 他地域とのつながり

第2章 安芸高田市の大地

- 1 安芸高田市の大地
コラム

第3章 安芸高田市の生物

- 1 安芸高田市の天然記念物
- 2 安芸高田市と江の川の生物
コラム

第1章 安芸高田市の自然と生活

1 安芸高田市の成り立ち

●安芸高田市は、いつ・どのようにして誕生したのでしょうか？



安芸高田市は、平成16年3月1日、高田郡6町(吉田町・八千代町・美土里町・高宮町・甲田町・向原町)が合併して誕生しました。(旧高田郡7町のうち白木町は昭和48年10月広島市と合併しました。)

現在14ある広島県の市の中では13番目の市として、平成11年から行われた平成の大合併と呼ばれる、市町村合併の動きに応じて合併しました。

市役所本庁舎は吉田町にあります。市の木はサクラ、市の花はアジサイです。

隣接している自治体は、広島市、三次市、山県郡北広島町、東広島市、島根県邑智郡邑南町です。



安芸高田市6町

■市章について

安芸高田市の市章は、安芸高田市の「高」を図案化したもので、下部の円は「人々と自然」・「信頼と協働」を意味しています。

人々と自然が融和・調和しながら市が円満に発展するようにとの願いを表現したものです。

市章全体は人間の姿を思わせるものとし、次代へ躍進する安芸高田市民を表しています。



安芸高田市章



市の木 サクラ



市の花 アジサイ

2 安芸高田市の自然



(1) 地理的位置

●安芸高田市の位置はどのあたりでしょう？

安芸高田市は、広島県の中北部に位置し、北は島根県、南は広島市に接しています。面積は国土交通省国土地理院の資料によれば537.79平方キロメートルです。(境界未定部分有)

市内には、急な山岳はみられません。鷹の巣山992m(向原町)、大土山800m(向原町・甲田町)、犬伏山791m(美土里町)など大小さまざまな山に囲まれ、市の面積の約8割を森林が占めています。

河川は、森林を縫って中央部を江の川(可愛川)が貫流し、北部は生田川、本村川が東流して江の川(可愛川)へ、南部は、三篠川と根の谷川が西流して太田川に合流しており、市全体として水と緑が調和したこまやかで落ち着いた景観となっています。



市内で一番高い鷹巣山(向原町)からの風景



安芸高田市の位置

安芸高田市の位置



●分水界とはなんでしょう？



安芸高田市に降った雨は、瀬戸内海に流れるの？それとも、日本海に流れるの？

雨水が、二つ以上の水系へ分かれて流れる境界を分水界と言います。

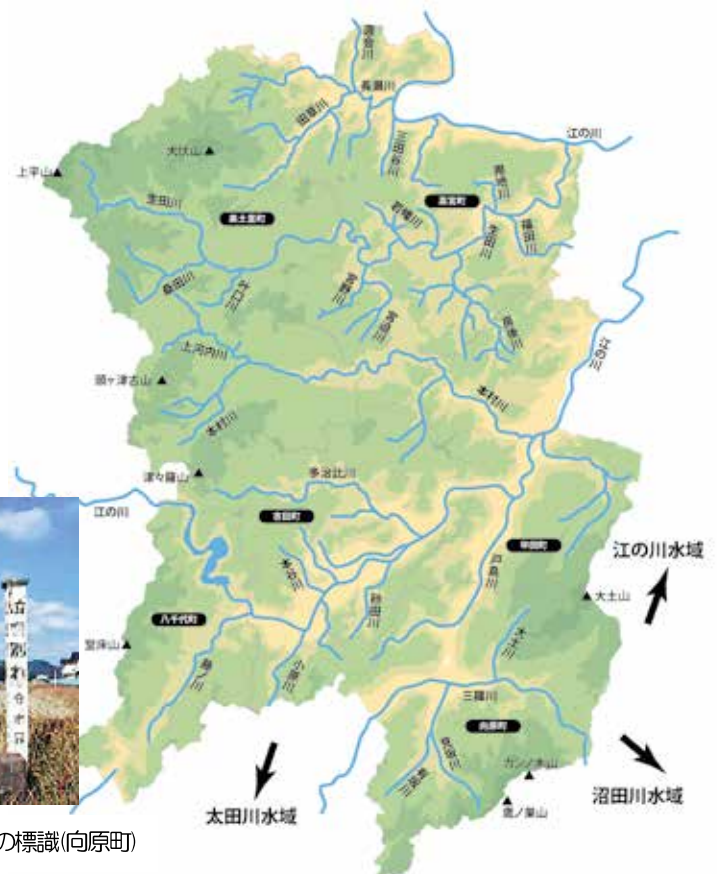
分水界になっている山稜を分水嶺と言います。

安芸高田市の川は、日本海にそそぐ水系と、瀬戸内海にそそぐ水系に分かれます。そのため、市内には水の分かれ目となる分水界があります。

向原町の戸島地区と八千代町の上根地区に分水界を知らせる標識があります。

特に向原町の戸島地区の分水界は標高200mという平地にあることから極めて珍しいものとされています。

八千代町上根地区の分水界は、上根峠の近くに位置しているため、標識には分水嶺と書かれています。

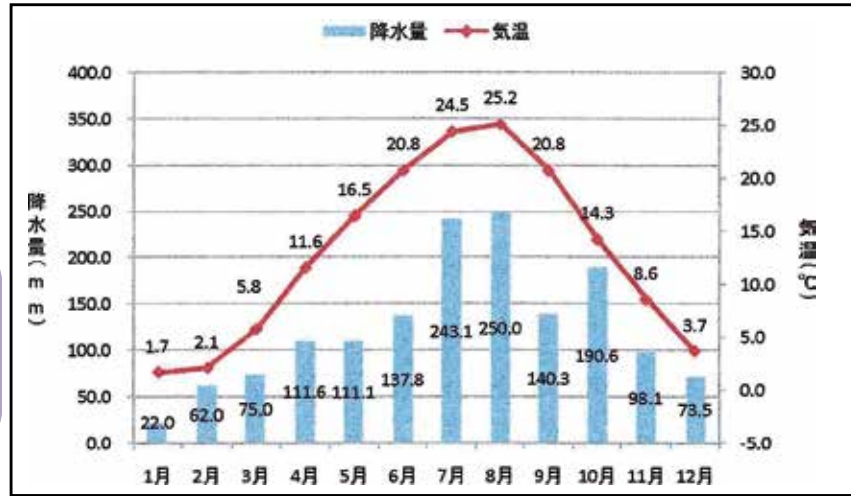


分水界の標識(向原町)

(2) 気候

気候とは、その地域を特徴づける大気の状態のこと。具体的には、通常は数十年間という大気の総合した状態の移り変わり天気・気温・降水量・風等の傾向を指す。

●安芸高田市の気候の特徴について雨温図から考えてみましょう。



年平均気温
13.8°C
年間降水量
1,360 mm

資料：気象庁三次気象観測所（気温），甲田気象観測所（降水量）

月平均気温と降水量（昭和54年～平成12年）

安芸高田市は、中国山地に抱かれた地域で南北に細長いため、南部と北部では気候が違います。基本的には、1年を通じて雨が少ない瀬戸内の気候と冬に降雪・くもりが多い日本海側の気候を併せ持っていますが、日本海側の気候の傾向が強くあらわれています。南部は瀬戸内の気候の影響がやや強く、北部は日本海側の気候の影響が強めです。北部は雪がかなり降ります。

< 参 考 >

日本の気候は大きく6つに分けられます。

(1) 北海道の気候

夏は涼しく、冬の寒さが厳しいです。1年を通じて降水量は北陸地方に比べると少ないです。梅雨や台風の影響を受けないのでからっとした天気が多いです。

(2) 太平洋側の気候

夏は南東からの季節風の影響を受けて雨が多く、蒸し暑い天気が多いです。冬は北西からの季節風の影響により山越しに冷たい乾いた風(からっ風)が吹き、乾燥した晴れの天気が多いです。台風の影響を受けやすいです。

(3) 日本海側の気候

冬は北西からの季節風の影響を受けて雪が多く、山沿いの地域では豪雪地帯となります。夏は晴れた日が多く、気温も高いです。

(4) 中央高地の気候

季節風の影響を受けにくく、1年を通じて降水量が少ないです。夏と冬、昼と夜の気温の差が大きいです。

(5) 瀬戸内の気候

夏は四国山地、冬は中国山地が季節風をさえぎるので、1年を通じて晴れの天気が多く、雨が少ないです。

(6) 南西諸島の気候

沖縄、奄美諸島、小笠原諸島を含む地域では1年を通して気温が高く、雨は多いが、霜や雪は見られません。

(3) 気象



気象は、気温・気圧の変化などの、大気の状態のこと。また、その結果現れる雨などの現象のこと。広い意味においては大気の中で生じる様々な現象全般を指す。

●安芸高田市の気象にはどのような特徴があるでしょうか。

中国山地のふもとに位置することから、安芸高田市は広島県内でも日本海側気候に区分されます。そのため冬季は北西の季節風の影響を受け、雪が多くなります。



<降水>

安芸高田市内では、美土里町と甲田町にアメダス⁽³⁾が設置されていて、降水量について観測を行っています。

	年間雨量 (mm)
美土里町横田	1847.5
甲田町高田原	1620.0
広島県平均	1862.0

↑ 平成25年度年間降水量

広島県の気象より編集委員作成

年間降水量は、県平均とほぼ同じくらいですが、冬季の降雪による降水の割合は、広島県南部より高くなっています。

<霧>

安芸高田市内を流れる河川や、豊富な植物による蒸散によって、湿り気を多く含む空気ができ、その空気は周囲の山によって移動が妨げられます。この空気が夜間に冷やされることによって、霧が発生します。湿った空気が盆地にたまって霧の発生が多くなる三次市とよく似ています。



↑ 鷹巣山の雲海

<風>

安芸高田市内で観測している地点はありませんが、近隣の観測地点の観測結果によると、西北西から北北西の風が吹く日が多くなっているようです。冬季に吹く季節風の影響が考えられます。

みなさんの住んでいる町の大地や気象にはどのような特徴があるでしょうか。自分の言葉でまとめてみましょう。



*注 (3) アメダス 各地域の降水量, 風向, 風力, 気温, 湿度などのデータを自動的に観測するシステム。全国に約 1,300 か所の観測所がある。

(4) 交通

●安芸高田市の交通網を確認してみましょう。



安芸高田市は他地域との
アクセスが整備されてい
るね！



安芸高田市の道路マップ

安芸高田市の中央を中国自動車道が通り、高田インターチェンジがあります。そのため、自動車による遠方への交通の重要な働きをしています。

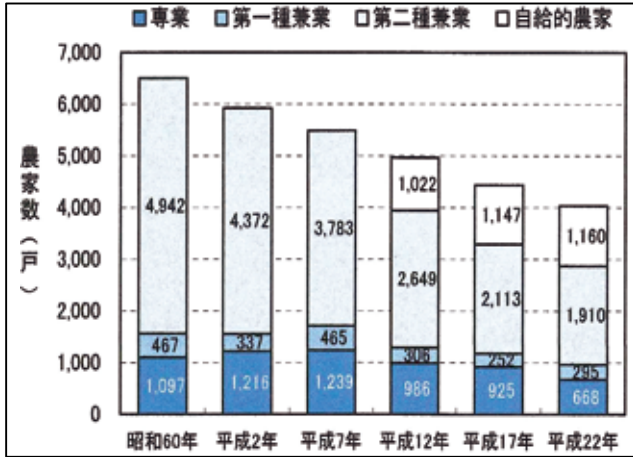
そのやや南東寄りに位置する国道54号は、自動車で広島方面・三次方面へ行く大動脈となっています。

安芸高田市の東側にJR芸備線や北側にJR三江線(高宮町)が通っており、広島方面・三次方面へ、公共交通機関を利用する人々を支えています。

3 安芸高田市の産業

(1) 農業

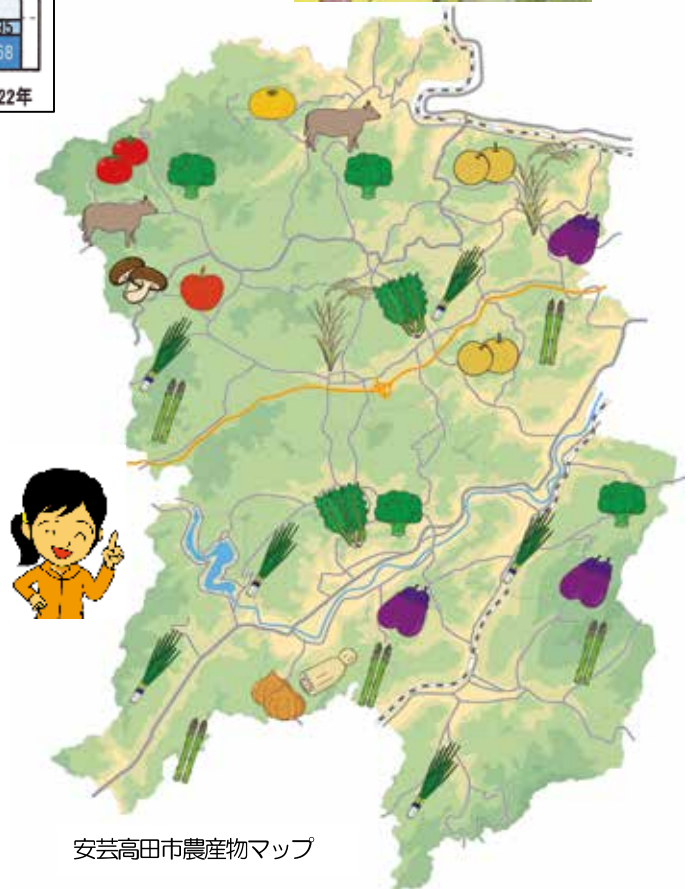
●安芸高田市ではどのような農業がおこなわれているのでしょうか？



専業別農家数の推移 (平成22年農林業サンセス)

単位：千万円	
種別	金額
耕種計	381
米	259
豆類	3
いも類	3
野菜	100
果実	10
花き	4
種苗・苗木類・その他	2
畜産計	252
肉用牛	45
乳用牛	68
生乳	60
鶏卵・鶏・その他	79
農業産出額(総計)	633

平成18年農業産出額 (広島県農林所得統計)



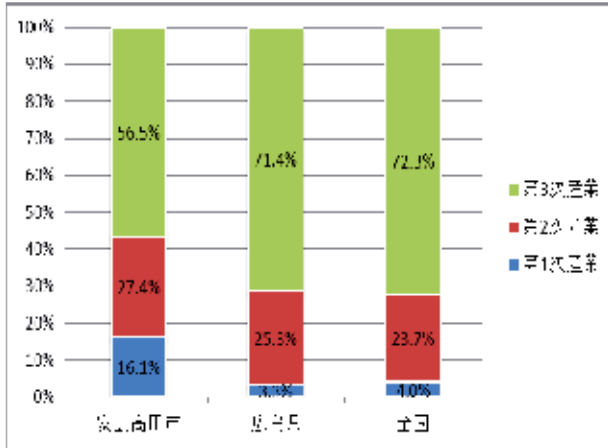
安芸高田市農産物マップ

安芸高田市の主要な農業生産物は米ですが、農家数は全体的に減少傾向にあります。また、専業農家は少なく、ほとんどが兼業農家です。また、その多くは第二種兼業農家です。最近では、自給的農家も増えています。なお近年は、持続可能な農業経営を行うため、経営法人化等が進んでいます。

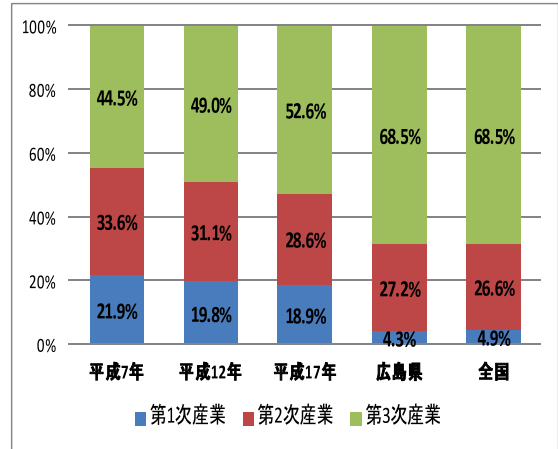
米では、コシヒカリ・あきろまん等の主食用品種と酒米やもち米の県内最大の生産団地となっています。野菜では、青ねぎの水耕栽培が市内全域で行われているほか、アスパラガス、白ねぎ、ブロッコリー等の産地形成も進みつつあります。また、なしなどの果樹栽培や畜産も盛んです。

(2) 工業

●安芸高田市の工業の特徴を調べましょう？

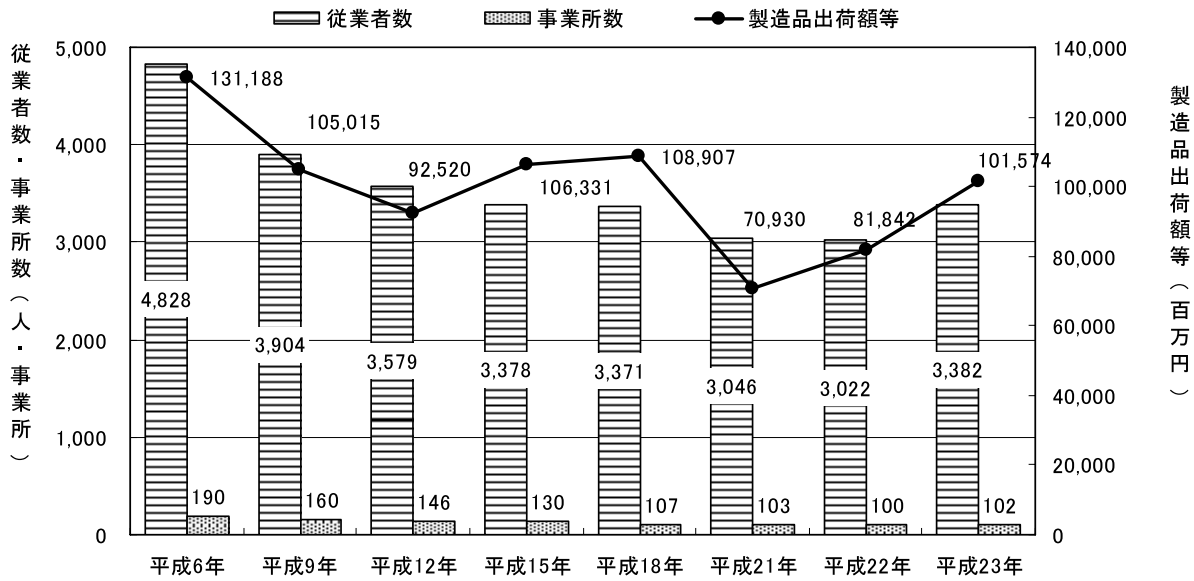


業別就業者数（平成22年国勢調査をもとに編集委員作成）



産業別就業者数の推移（広島県、全国は平成17年）

（国勢調査より）



従業者数、事業所数、製造品出荷額の推移（工業統計調査 従業員4人以上事業所）

安芸高田市の産業別事業者数は、全国・広島県と比較すると第1次産業に従事する者が多く第3次産業に従事する者が少ない傾向にあります。推移でみると全国・広島県と同様に第1次産業就業者数が減り、第3次産業就業者数が増えています。

工業では、従業者数・事業所数・製造品出荷額とも減る傾向にあります。

平成23年の工業統計調査では、事業所数は、102事業所で、従業者数は、3,382人です。製造品出荷額等は、およそ101億7千万円です。企業の規模としては、中・小・零細企業です。また、マツダ株式会社の関連企業も多いようです。

4 安芸高田市の人口

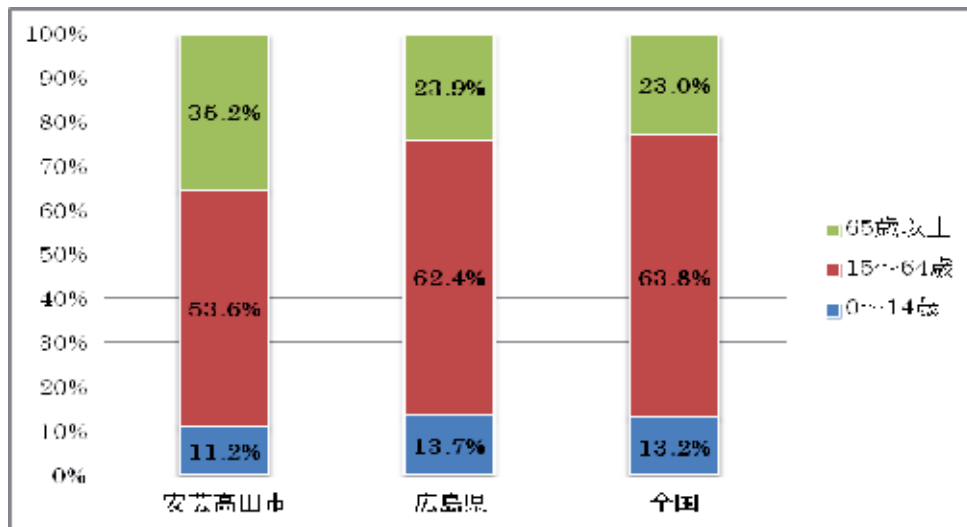
●安芸高田市の人口の特徴を次のグラフから読み取りましょう。



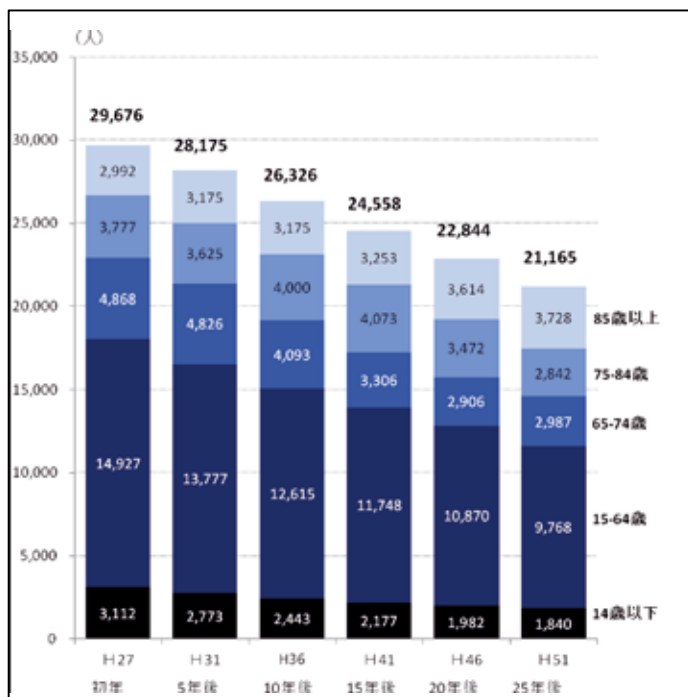
安芸高田市の人口は、安芸高田市が誕生した平成16年3月1日の時点で34,281人でした。男16,490人、女17,791人、世帯数12,990世帯でした。平成26年7月1日の時点では、30,182人、男14,546人、女15,636人、世帯数13,184世帯です。

「高齢化」を示す指標としては、総人口に対する65歳以上人口（老年人口）の割合が最もよく利用されています。WHO（世界保健機関）や国連の定義によると、65歳以上人口の割合が7%超で「高齢化社会」、65歳以上人口の割合が14%超で「高齢社会」、65歳以上人口が21%超で「超高齢社会」と定義されています。平成22年度の安芸高田市は35.2%です。

安芸高田市は、超高齢社会がさらに進んでいるね。



年齢階層人口（平成22年国勢調査をもとに編集委員作成）



安芸高田市の推計人口（国立社会保障・人口問題研究所 推計人口）

現在の日本の国自体が「超高齢社会」であり、広島県も同様です。安芸高田市の人口は、減少傾向にあるとともに、全国・広島県と比較すると65歳以上の人口が非常に多く、超高齢社会がさらに進んでいます。また、人口が減り世帯数が増えているのは、核家族化が進行していることを示しています。安芸高田市は、このままの状態では人口が減っていくと10年後には約26,000人、25年後には約21,000人と現在の人口の約70%まで減少すると予想されています。

5 安芸高田市の観光

平成 25 年広島県総観光客数によると、年間 138 万 6 千人の観光客が安芸高田市を訪れています。

安芸高田市には、日本プロサッカーリーグ（Jリーグ）のサンフレッチェ広島の練習拠点があり、チーム名の「サンフレッチェ」も毛利元就の「三矢の訓（おしえ）」からつけられています。

また、日本最高峰のハンドボール実業団チームの湧永製薬ハンドボール部もあります。

●安芸高田市には、どのような観光スポットがあるのでしょうか？



観光スポットは、毛利元就に係わるものと、地域振興のためなどに作られたものと、大きく二つに分けられます。

■毛利元就・郡山城周辺

○安芸高田市歴史民俗博物館

毛利氏と郡山城跡を中心に市の歴史と文化財を紹介する博物館です。特に郡山城からの出土遺物、社寺への奉納品などが充実しています。毛利氏歴代当主の名がみえる清神社棟札や毛利輝元の関ヶ原合戦の勝利を祈願し奉納した絵馬は必見です。

他にも史跡や郷土芸能なども映像で紹介しています。



○郡山城跡

毛利元就が中国地方制覇の拠点とした城の跡です。山全体を城郭化し、本丸跡をはじめ 270 ケ所以上の郭跡が残っています。

平成 18 年には大阪城や姫路城などとともに、日本百名城に郡山城も選ばれました。



○百万一心碑

毛利元就が郡山城拡張の際、埋めたとされる石に掘り込まれていた文字が「百万一心」です。

一日一カー心と読み、一致団結の大切さを教えたものとされています。

この石碑の向かい側に毛利元就の墓所があります。



○三矢の訓跡碑

1 本では折れる矢も 3 本束ねると折れないと、結束の大切さを説いた毛利元就の逸話「三矢の訓」。

サンフレッチェ広島は、サンは数字の 3、フレッチェは矢を意味するイタリア語からチーム名がつけられました。

三矢の訓跡碑は安芸高田少年自然の家の中庭にあります。



○毛利元就墓所

元就は、元龜^{げんき}2(1571)年6月14日郡山城内^{はらんぼんじょう}で波乱万丈の生涯を閉じました。享年75歳でした。

墓標には「はりいぶぎ」が植えられ、3回^{ぼだいじどうしゅんじ}忌に菩提寺洞春寺が建立されました。



○清神社

戦国時代、毛利氏の祈願所だった神社です。毎年、サンフレッチェ広島も必勝祈願に訪れています。

勝負の神様がバックアップしている、ひそかに人気のパワースポットとも言われています。



○安芸高田少年自然の家(輝ら里)

郡山に抱かれた青少年のための集団宿泊体験施設です。

中庭に三矢の訓^{おしえ}跡碑があります。



安芸高田市は毛利元就が有名なだね。



■神楽門前湯治村(美土里町)

格子づくりの旅籠屋^{はたごや}や湯治宿^{とうじやど}、田舎料理、茶店などが並ぶ昔懐かしい街並みです。

天然温泉は疲れを癒し、体験工房では神楽面の絵付け、わら細工、竹細工などが楽しめます。

神楽は、基本的には4月～11月の金曜日、土曜日の夜には「かむくら座」で夜神楽が行われ、日曜日・祝日には、神楽ドームで昼神楽の定期公演が行われます。引き続き、12月から3月の土曜日には夜神楽が、日曜日・祝日には昼神楽が「かむくら座」で行われるなど、年間通じて神楽を満喫できます。



■たかみや湯の森(高宮町)

江戸時代より、優れた効果を持つ「大仙の湯」として親しまれてきた天然ラドン温泉です。

「酒米所 高宮」ならではの酒風呂が楽しめる露店岩風呂，“真珠の泡”とも呼ばれる炭酸ガスが心地よい露店炭酸風呂など、バリエーション豊富なお風呂が心身を和らげてくれます。



■土師ダム (八千代湖畔) (八千代町)

八千代湖畔に広がるスポーツランドで20kmのサイクリングロードやテニス，サッカー，野球，カヌーなどスポーツレクリエーション施設が充実しています。

2人乗り自転車やマウンテンバイクのレンタルもあります。

西日本有数の桜の名所で、いっせいに開花した様子は圧巻です。



■八千代の丘美術館(八千代町)

八千代の小高い丘に建つ15棟のギャラリーと総合施設の展示室を合わせた生涯学習施設です。

広島を拠点に活躍する15人の芸術家により，各種展示会や公開講座が開催されています。



■道の駅「北の関宿 安芸高田」(美土里町)

採れたて地元野菜や珍しい乾物が並ぶ「山の市・海の市」，“うこん”を練りこんだ麺が自慢の「ながいきラーメン食堂」があります。

また，敷地内にはコンビニもあり，高田ICに隣接しているという立地条件からも，安芸高田市観光の拠点となっています。



■産直市場ICHIKURA八千代店(八千代町)

中国山地の豊かな自然に恵まれた安芸高田市を中心に近隣町で生産された野菜，くだもの，花，米を中心に販売しています。店内には，生産農家が毎朝収穫した新鮮な農産物が並びます。農産物や漬物，ジャム，はちみつなどの加工品には，生産者の名前が表示されており，安心して買うことができます。



■ふれあいたかた産直市(吉田町)

地域農産物の^{はんろ}販路確保とPR，魅力ある加工品づくり，農業農村の活性化を目的に，JA広島北部が運営しています。地域農産物を使った加工品が数多く並んでいますし，手作りの味が取りそろえてあります。地産地消の発信拠点としても活用されています。



■向原農村交流館やすらぎ(向原町)

農産物や加工品の販売の他，地元野菜を使ったカレーうどん，コーヒーなどの軽食を楽しめるコーナーや展示スペースもあり，ちょっと一息つけるやすらぎの場所です。4月の第3日曜日には「アートまつり in 向原」も開催され大勢の人で賑わっています。

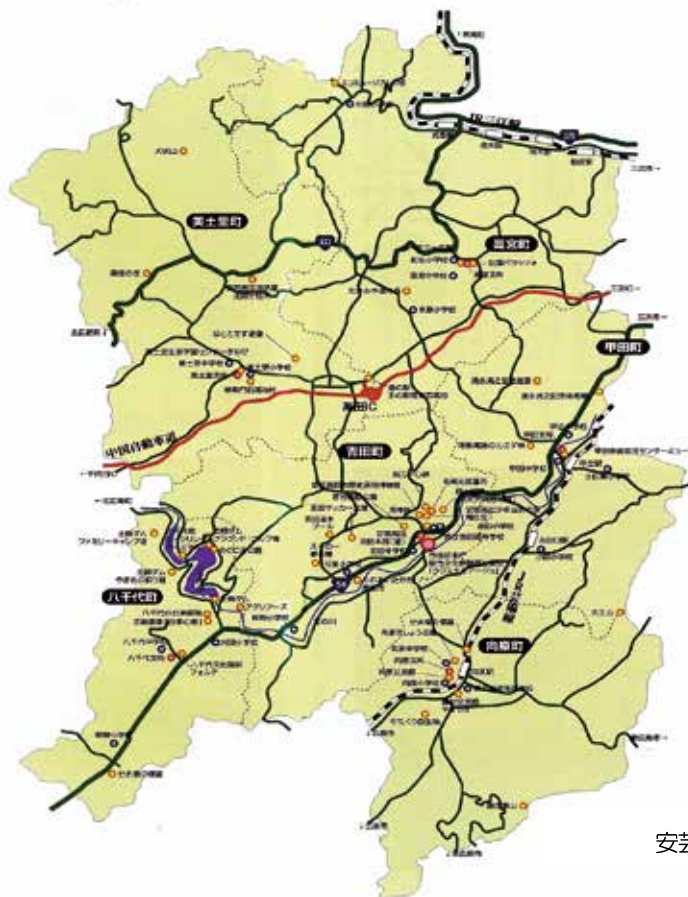


■千貫水(甲田町)

五龍山麓^{せんがんすい}にあって，昔は山中に湧き出^わていたと伝えられています。

宍戸家^{ししどけ}代々の城主はこれを愛^{いと}しみ，とくに8代隆家^{たかいえ}がこの水を「千貫にも代えがたし」と言ったとして千貫水の名がつけました。名水鑑定士の鑑定済みの水です。

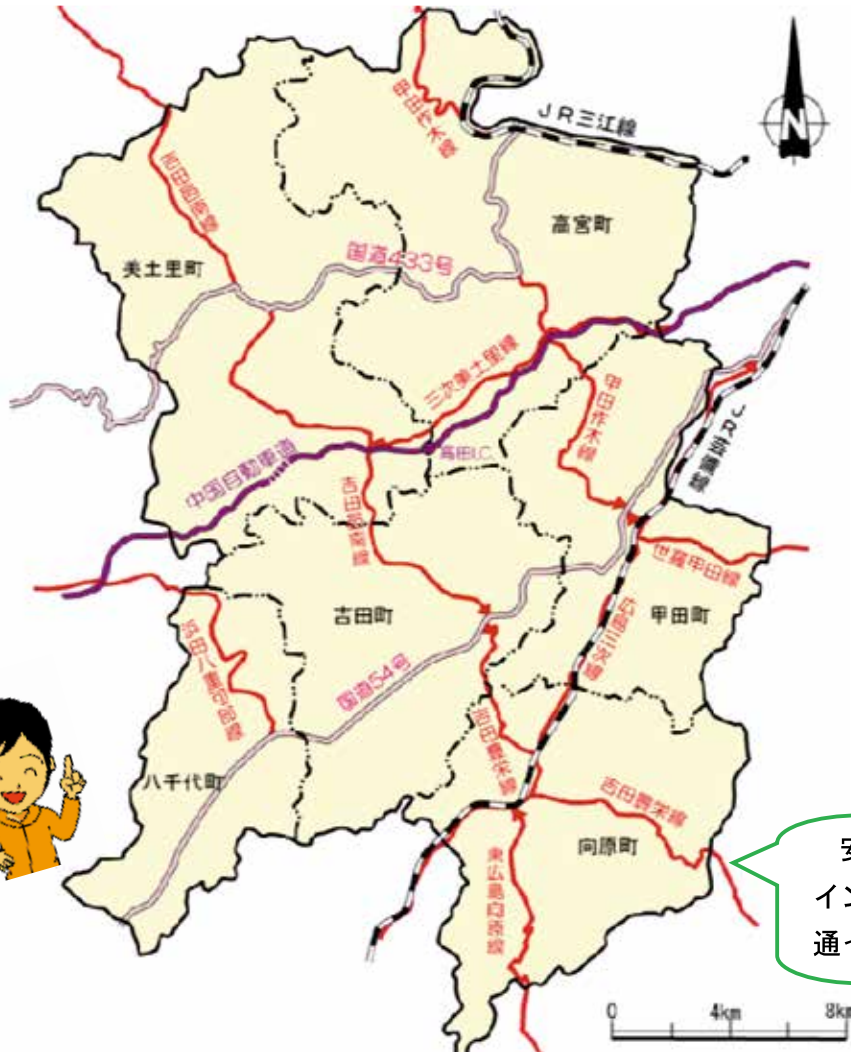
1811年に所在を示す碑が建てられました。



安芸高田市の主な観光スポット

6 他地域とのつながり

●安芸高田市は、どの地域とつながり（人や物の交流）が深いのでしょうか？



安芸高田市は、道路が整備され、一般国道54号、中国自動車道、JR芸備線・三江線も通っており、地理的位置から、広島市、三次市、山県郡北広島町と人や物の交流が盛んです。

また、高速道路や空港を利用した遠方の地域とのつながりも増えています。

安芸高田市には、高速道路が通り、インターチェンジもあるし、JRも通っていて、交通の便はいいよね！

■ 路線バス

広島 可部 安芸高田市役所
 約1時間10分

■ JR 芸備線

広島 向原 吉田口 甲立
 約1時間10分～20分(快速50分～1時間)

■ 高速バス (中国自動車道)

広島 美土里 高宮 三次
 約1時間～1時間5分 約20分



高田インターチェンジ



政令指定都市広島市



安芸高田市近辺主要交通網

第2章 安芸高田市の大地

1 安芸高田市の大地

●皆さんの住む大地はどのようなものからできているのでしょうか。

安芸高田市は、今からおよそ3億年から1億年前に海底であった部分が持ち上がってできた大地を基盤として、マグマが冷えて固まった火成岩や、火成岩が風雨などでぼろぼろになり、川などによって運ばれ、再び堆積してできる堆積岩からできています。

<代表的な火成岩>

◎花こう岩

花こう岩は、マグマが地下深くでゆっくりと冷えてできる深成岩の仲間です。広島県の大部分の地下にこの岩石があると考えられていて、広島型花こう岩と呼ばれています。セキエイやチョウセキによる白い部分と、クローンモを主とする黒い部分のまだら模様が特徴です。

安芸高田市には、広島型花こう岩よりも古く、白亜紀中期（およそ1000万年前ごろ）に形成されたと考えられる別の花こう岩も、高宮町、八千代町、向原町に見られます。

◎高田流紋岩類

流紋岩は、花こう岩になるマグマと同じ成分のマグマが、地表付近などで急冷されてできる火山岩の仲間。高田流紋岩類は、火山灰や火山礫が固まって流紋岩のようになったものと考えられています。全体は青灰色をしていて、花こう岩とよく似たまだら模様が特徴です。

<代表的な堆積岩・地層>

◎甲立礫層⁽¹⁾

甲田町と高宮町にみられる礫岩でできた地層の中で、甲立高原にはこの地層に含まれる3～15cm前後の大きさの丸っこい礫がよくわかる崖があります。しかし化石が見つかっていないため、いつごろできた地層なのか、わかりません。

*注（1）礫層 礫とは、直径2mm以上の岩石でできた粒のこと。礫層とは、おもにこの礫が集まって地層を作っているもののことを指す。



↑ 花こう岩の例

編集委員撮影



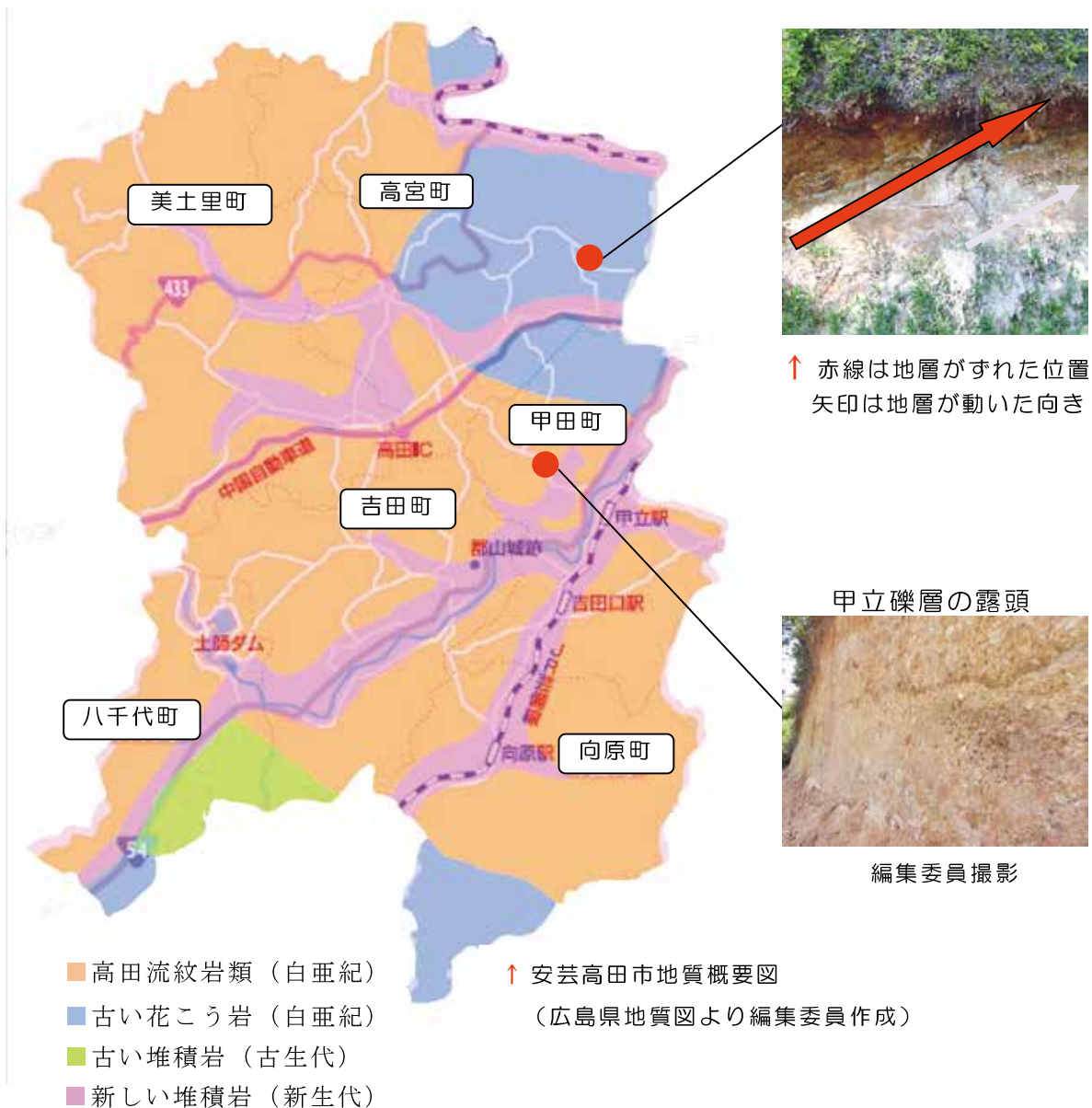
↑ 高田流紋岩類の例

編集委員撮影

ふなさやまのうちぎゃくだんそうたい
 ◎船佐山内逆断層帯(2)

甲立礫層の下には、さらに備北層群という地層があり、さらにその下には花こう岩があります。この船佐山内逆断層帯では、地下深くにあるはずの花こう岩が、甲立礫層の上に持ち上がっていることが観察できます。低い土地が隆起して中国山地ができたことを示す証拠と考えられており、高宮町に見られる露頭は国の天然記念物に指定されています。

<安芸高田市の大地をつくる様々な岩石の大まかな分布>



*注(2) 逆断層 地層が横方向から押しつぶされるような力を受けると、ある部分を境に大地が割れ、その片側がもう片側の上に持ち上がった形になる断層。

コラム 上根の河川争奪^{かせんそうたつ}

八千代町上根には、河川争奪地形という珍しい地形があります。

広島市から国道54号を北上していくとき、八千代町上根に至る旧道を通ったことはありますか。

この旧道を北上すると、右には根ノ谷川が広島方面へ流れていくのが見えます。左側は切り立った崖のような地形になっています。この崖は、その昔、川の底にあった岩石でできているのです。

旧道を登りきったあたりには、広い平野があるのですが、この平野を作った河川は、現在はとても細く、八千代町と吉田町の境付近で大きな川になります。そして、可愛川、江の川となって北上します。



↑ 河川の底であったことを示す
礫岩の層（八千代町上根）
編集委員撮影

河川争奪は、隣接する川の浸食力の違いによって起こります。安芸高田市八千代町の上根^ひ峠付近では、江の川水系の簸の川上流が、太田川水系の根谷川の強い浸食によって奪われています。何万年という時間の流れからみれば、江の川流域は少しずつ小さくなっていることとなります。



↑ 八千代町上根に向かう旧道
（広島市側から編集委員撮影）

では、昔はどうなっていたのかということ、根ノ谷川はおよそ1万年前までは、現在の可愛川^{えのかわ}のほうへ流れていたらしいのです。ところがあるとき、このあたりの南側の大地が陥没^{かんぼつ}して低くなり、北へ流れていた川が南側へ流れるようになったと考えられています。このことによって、北側へ流れる水は減り、広い平野に似つかわしくない細い川だけが現在に残っているのです。



↑ 八千代町上根の平地 編集委員撮影

第3章 安芸高田市の生物

1 安芸高田市の天然記念物



●安芸高田市にある天然記念物にはどのようなものがあるでしょうか。

人と自然とが共生しながら発展してきた安芸高田市には，さまざまな自然物が大切にされ，残されています。なかでも特徴的な植物については，広島県から7つの天然記念物が指定されています。

さらに，国から指定されている天然記念物（船佐山内逆断層帯），安芸高田市が指定する天然記念物（25か所）もあります。調べて訪れてみましょう

安芸高田市文化財マップ
<http://www.akitakata.jp/site/page/kyouiku/syougaigakusyu/bunkazai/>

↑ 広島県指定天然記念物の位置
(安芸高田市HPより編集委員作成)

2 安芸高田市と江の川の生物

●安芸高田市にはさまざまな河川がありますが、その代表格である江の川とは、どのような川でしょうか。



「江の川」という名称は、昭和41年4月に一級河川に指定された際に定められた名称で、それ以前は流域の各地において可愛川、郷川、江川など様々に呼ばれていました。三次市より上流における江の川本流は「可愛川」と呼ばれ、日本書紀（720年成立）にもその名が記されていることから、古くから可愛川と呼ばれていたようです。江の川は、山県郡北広島町阿佐山に源流をもち、島根県江津市にそそぐ河川です。向原町と八千代町にある分水嶺を境に、安芸高田市北部の河川が江の川へ合流します。安芸高田市は江の川の上・中流部にあたり、溪流に見られる様々な生物が生息しています。



アユ（魚類）

うっすらとした緑色の背中が特徴。生まれると海へ出て、産卵のために川へ戻ってくる。岩についた藻を主に食べる。



オヤニラミ（魚類）

水のきれいな緩い流れの河川を好む。水生昆虫などを食べる。かつて観賞用として乱獲され、数を減らしている。レッドデータブックひろしま絶滅危惧Ⅱ類。



ヤマセミ（鳥類）

カワセミと同じように木の上から水面をのぞき、急降下して魚をとらえる習性をもつ。カワセミより大型で色も白黒である。レッドデータブックひろしま準絶滅危惧。



オオサンショウウオ（両生類）

高宮町川根で150cmの個体が保護されたことがある、最大の両生類。およそ3000万年前から姿を変えていない「生きた化石」。国の特別天然記念物。

↑ 江の川に生息する生物の例（『江の川(上流)河川維持管理計画（国土交通省）』より）

近年、かつて遡上してきていたという鮭を、ふたたび江の川に呼び戻そうと、鮭の稚魚を放流する取り組みが、高宮町川根地域などで行われています。



溪流にすむ生物には、きれいな水が欠かせません。きれいな河川を守るために、どのようなことができるか、あなたの考えを書いてみよう。

安芸高田市は自然に恵まれ、特徴的な生物が見られる市です。しかし、その特徴を崩してしまうものもあります。その1つが、外来種と呼ばれる生物です。

外来種（外来生物とも）とは、もともとはその土地にいなかったけれど、人間の活動によって別の地域から持ち込まれた生物のことをさします。カミツキガメやブラックバスなどが、ニュースなどでも話題になることがありますし、アメリカザリガニやタンポポ、シロツメクサ、オオカナダモなど、身近なところに多くの外来種が存在しています。人間の活動にとって重要な外来種も多くいますが、なかには、もともとその地域に暮らしていた生物（在来種）や自然環境に大きな影響をあたえるものもあります。



↑ オオカナダモ
（編集委員撮影）

＜外来種による環境への影響＞

- 外来種が、在来種を食べてしまい、本来の生態系が乱される。
- 外来種が、在来種と同じような生活をするすることで、在来種の生活を乱してしまう。
- 外来種が、在来種と交雑することで、在来種がもともと持っている特徴が失われていく。

＜外来種による被害を予防するために大事なこと＞

- ① 外来種をその地域に持ち込ませないこと。
- ② 飼育している外来種を逃がさないこと。
- ③ 野外にいる外来種を、他の地域へ広げないこと。

安芸高田市でも、土師ダム等でブラックバスの再放流を禁止したり、漁業組合による駆除が行われたりと、外来種に対する様々な対策が行われています。



↑ 再放流を禁止する看板
（編集委員撮影）



↑ 駆除されたブラックバス等
（可愛川漁協）